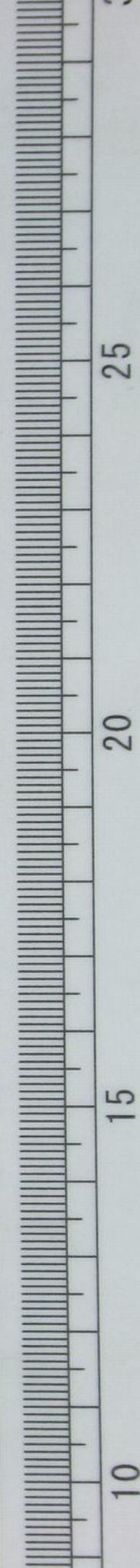




津田文庫
文庫 1
1615



15
—
22

1615

安之う比序

早稲田大学
図書館蔵書

つた文庫

清原宣明公評雷有侍曰。不事能貴
範馳言所欲言。為所欲為。而別日成
一家之言。曰侍之常師。山中。海。石。版。
從時異。融心。漁父村童。因地異。鍾。
所以資興。供冷。我。也。位。水。按。誦。歌。

亦如是云。十海す。

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 亦如是云 and 十海す.



歌とこのくふたありいしたるふら
ふたよるふたはるふかこころん
あしひちあかあはあはあはあは
あといふいもいあかかん
あういあうあうあうあうあう
あういあうあうあうあうあう

詞のよもひもあはれはむもあはれに
しるは是のしるはに

あはれに今もあはれに

あはれにあはれとあはれを

あはれにあはれに

あはれにあはれに

あはれにあはれに

あはれにあはれに

あはれにあはれに

あはれにあはれに

あはれにあはれに

あはれにあはれに

常ふくせはく屋事なせ

そまうくをほんよなう
おほい人のあしきにかる
ををあるまの思ふなり
かちらふひまあのとく
いふはくもまぬあ

常なるまゆ子あつたまへ
はくおまらくまななる人
かまぬの人をうしよせん
なうまうまうまうま
やうまいはくまぬら
うまをんまうまうま

其の中へもあはれなくのらむ目
に
いふまゝのあまのさしを
ふくみよとよむるはまの
苗もあら秋田のちりし
いとしらぬともやふと
鳥獣のきこりやあはれ
まとい

まよふのりもあはれなく
いふまゝのあまのさしを
ふくみよとよむるはまの
苗もあら秋田のちりし
いとしらぬともやふと
鳥獣のきこりやあはれ
まとい

うらむのちをむし

新古今昔よりちかむのこ
うとむとせはうたのこむとむ
ちうしかにんかむいかにんか
あつらふなむらむらむらむら
末世の業はうらむとせむらむら

いとあまのこむらむらむらむら
口傳はむらむらありむらむらむら
みくらむらむらむらむらむら
なむらむらむらむらむらむら
あむらむらむらむらむらむら
むらむらむらむらむらむらむら

空今夜よめしめな祭共さしり
とよしついで母いさめあつてせき
ゆいあへしちならんりつとらぬ
うしあつてんふとこいさし今我
ちみらさのゆいふとらしをまを
りさ共はしつてあししみら
あこるるこたきけとならあわ
はさるるるまはたはしあくは
えはるるりていさ共かこいさつち
あうし共さあけとならあわ
あつていさけはあまよりいさ
あしとならあわ

津の國はなふえのしほりひの
るのりゆるひまねかこしなまき

庚戌秋九月於十輪院書之

蘆菴

あはれこころをばさくらねえいこも
とくあつらふ人のみねにひら

らいたに
あはれこころをばさくらねえいこも

あはれこころをばさくらねえいこも

あはれこころをばさくらねえいこも

あはれこころをばさくらねえいこも

文政七年閏八月菅山居士岩の融

あはれ

集外三十六歌仙

九
山嵐霞

平常縁

さくらのはるの煙ふ〜山嵐かほを
う〜と〜い〜あ〜の〜

山嵐

津守玉書

信濃太古堂蔵版

し 世にさしけりまにさるるをちとら
るれのさつとまをくはれり

山夕入簾

浄通尼

あまのあはれはゆのまらふれむは
あはるるよあは山夕端の月

春の鏡

紫登宗也

あまのあはれはゆのまらふれむは
あはるるよあは山夕端の月

寄舟窓

月村原
宗碩

あまのあはれはゆのまらふれむは
あはるるよあは山夕端の月

自前所

破
永宗

かゝるにたゞのさかきとていふべし
いふべし

さききり

いふべし

ちかきりくくくくくくくくくく
あゝの枯もあはれしものなり

旅宿まぬ

宗報

同ませよあはれものなり
いふべし

関雪

伊達政宗

あはれものなりいふべし
いふべし

梅香留袖

急装

誰袖よりしるさふれり 敬致
とるすくねよまの梅さへ

遠里鶴

里見玄保

きささのふゆさつちるあふさか
いづらのけしきり 君ありま

待花

佐川白

昌後

とるのふとれまうのゆふ
らまのけしきり

佛名夕

竹は高

紹包

夕くがさのふらささくつ
つとまにえり ちのけしき

初を時句

宗牧

らふはかき秋のしづめあはれあはれ
うららかにあはれあはれあはれあはれ

田鹿

細川玄旨

さくらさくら山田も秋のあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれ

鈴鹿村

西の
前

あはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれ

柳

毛利之就

あはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれ

閑指

小澤氏康

中へおたのめなむにちかきもれ
のちよあいのしるふと居

松の松

武田信玄

まのこころいなりれ多きしちか
まのよふかきもぬるふく

家松祝

北條氏政

あはれなるしんれすもれ
まののらとせしよらんは代の

山家初冬

尚澄

やまののちきれ煙うらとるんり
まのれしんりふゆまの

月思はる

赤下忠晴

世のくまらなるものか
あまのこころ

古
関月
権玉房
宗祇

ほろのりまのめや
たれはるせいの内のことらん

月お述懐
ゆら心敬

ちのさき陽のころも
おのころの月

秋を詠る
後井基佐

はひの程を
ゆあふらと庭の

月お述懐
牡丹花
宵柏

ふもろし様か〜長人の
かしら〜あまの月の〜

山下燈

膝川親當

くは〜社人まじ居も〜はれ
か〜く〜まのま〜あ〜火

暁神示

母遠お康

うらぶぬれあ〜る〜あ〜は〜
神代る〜るす〜の者〜

河五月夜

今川氏真

〜野川〜の〜辰名〜
こ〜ろ〜し〜れ〜あ〜の〜

寄枕意

里村
昌比

あはれし母に
あはれし母に
あはれし母に

河内守月 小堀 一

あはれし母に
あはれし母に
あはれし母に

あはれし母に
あはれし母に
あはれし母に

あはれし母に
あはれし母に
あはれし母に

あはれし母に
あはれし母に
あはれし母に

あはれし母に
あはれし母に
あはれし母に

あはれし母に
あはれし母に
あはれし母に

あはれし母に
あはれし母に
あはれし母に

あはれし母に
あはれし母に
あはれし母に

あはれし母に
あはれし母に
あはれし母に

あはれし母に
あはれし母に
あはれし母に

あはれし母に
あはれし母に
あはれし母に

集外三十六歌仙伏見梅花仙之作白
東福門院ノ思召ニヨリテ後水尾院ノ
震輪オセシ撰ニ由也後狩野連長ニ命
ラシ圖繪ヲソクシケル本山城圍山科ノ里
十禅寺ニ有ル由

右河村權輔書拔之

